

第16回建築BIM推進会議資料



(一社)日本建築構造技術者協会(JSCA)

特記仕様書、RC配筋標準、鉄骨基準図のデータ化の案

- 日本建築構造技術者協会(JSCA) BIMへの取り組み
- 活動内容

構造躯体に関してデータ化すべき内容の統一化

- 構造データの標準化については標準化TFなどに移行
- 特記仕様書や標準図の内容の受け渡し情報や受け渡し方法について整理

次年度以降も継続

特記仕様書のデータ化

■ 特記仕様書のデータ化

構造部分の特記仕様書について、データ授受を目的としたデータ整理

国土交通省大臣官房官庁営繕部監修

公共建築工事標準仕様書 (建築工事編)

令和7年版

一般社団法人 公共建築協会

- 対象とした標準仕様書

国土交通省大臣官房官庁営繕部監修
公共工事標準仕様書

- 図面の特記仕様書に代わり
データ形式での受け渡しを想定する。

(標準仕様書ではなく特記仕様書)

■ 特記仕様書のデータ化

構造部分の特記仕様書について、データ授受を目的としたデータ整理

標準仕様書の記載例

公共建築工事標準仕様書（建築工事編）令和7年版

6節 砂利、砂、捨コンクリート地業等

4.6.1 一般事項

この節は、砂利、砂、捨コンクリート地業等に適用する。

4.6.2 材料

(1) 砂利地業に使用する砂利は、再生クラッシュラン、切込砂利又は切込砕石とし、適用は**特記**による。

なお、粒度は、JIS A 5001（道路用砕石）によるC-40程度とする。

(2) 砂地業に使用する砂は、シルト、有機物等の混入しない締固めに適した山砂、川砂又は砕砂とし、適用は**特記**による。

(3) 捨コンクリート地業に使用するコンクリートは、6章14節[無筋コンクリート]による。表6.2.1以外のコンクリートを用いる場合は、**特記**による。

(4) 床下防湿層に使用する材料は、**特記**による。**特記がなければ**、ポリエチレンフィルムとし、厚さは0.15mm以上とする。

4.6.3 砂利及び砂地業

(1) 砂利及び砂地業の範囲及び厚さは、**特記**による。**特記がなければ**、厚さは60mmとする。

(2) 砂利を敷き均し、所定の厚さに締固める。

(3) 締固めは、ランマー3回突き、振動コンパクター2回締め又は振動ローラー締め程度とし、緩み、ばらつき等がないように、十分締固める。

(4) 厚さが300mmを超える場合は、300mmごとに締固めを行う。

(5) 砂利地業の上に4.6.5による床下防湿層を直接施工する場合は、防湿層の下に目つぶし砂を敷き均す。

- 特記が必要な内容の抽出
 - 特記内容の記述方法
- 特記が無くてもよい場合
 - 区分して内容を抽出
- 独自の追加内容項目
 - 頻度の高いデータをピックアップ

■ 特記仕様書のデータ化

構造部分の特記仕様書について、データ授受を目的としたデータ整理

データベース化した部分

- 4章 地業
- 5章 鉄筋
- 6章 コンクリート
- 7章 鉄骨

7章の鉄骨に関連して18章塗装工事のうち耐火被覆については記載方法の議論を行った。今後、建築の方で同様の議論が進めば受け渡し方法やデータ記載方法などの議論を進めたい。

■ 特記仕様書のデータ化

構造部分の特記仕様書について、データ授受を目的としたデータ整理

データベースの構成

- 特記が必要な項目
- 特記が無くても記載がある項目
- 独自に追加した項目

項目	内容	備考	特記の 必要性	暫定コード (位置: 9 + 枝番: 1) NA-2025-
5章 鉄筋工事				
1節 共通事項				
2節 材料				
5.2.1 鉄筋				
鉄筋の種類				
位置	テキスト	上部躯体、基礎、杭、柱主筋、梁せん断補強筋、等、書き方は調整が必要	○	05-02-01-00-00-00-00-00-00-01
径	テキスト	D10、D13・・・等	○	05-02-01-00-00-00-00-00-00-02
材料	テキスト	SD295、SD345、SD390・・・等	○	05-02-01-00-00-00-00-00-00-03
・				
・ 3項目を必要回数繰り返し				
・				
5.2.2 溶接金網				
使用部位 (追加)	テキスト			
種類 (追加)	テキスト	レギュラー溶接金網、レギュラー鉄筋格子等		
鉄線・棒鋼の形状	テキスト	丸鉄線、異形鉄線、丸鋼、異形棒鋼	○	05-02-02-00-00-00-00-00-00-01
材料 (追加)	テキスト			
網目寸法	数値		○	05-02-02-00-00-00-00-00-00-02
径	テキスト		○	05-02-02-00-00-00-00-00-00-03
・				
・ 6項目を必要回数繰り返し				
・				
5.2.3 材料試験 (追加)				
材料試験の採用、方法など	テキスト			
3節 加工及び組立				
5.3.2 加工				
鉄筋の折り曲げ形状及び寸法				
90°未満の折り曲げ内法直径	図面による		○	05-03-02-03-00-00-00-00-00-01-T050301

■ 特記仕様書のデータ化

構造部分の特記仕様書について、データ授受を目的としたデータ整理

暫定コードについて

「デジタル社会に向けた公共建築工事標準仕様書のあり方に関する検討会」での議論を踏まえて下記とした。

NA-2025-00-00-00-00-00-00-00-00-00-T/F000000

独自枝番

ID (コード)	1	2	3	4	5	6	7	8	9
建 築	章 16章	節 2節	項 16.2.2	(1)	(ア)	(a)	①	㊲	㊳

①種別_年版_編_章_節_項
新営 (建築) R7年版1章1節1項 ⇒ [NA-2025-00-01-01-01](#)

②図、表は、①のあとに「_TorF_番号」を設定
新営 (建築) R7年版1章1節1項 図2.1.1 ⇒ [NA-2025-00-01-01-01-F020101](#)
新営 (建築) R7年版1章1節1項 表2.1.1 ⇒ [NA-2025-00-01-01-01-T020101](#)

標準図のデータ化

■ 標準図のデータ化(今後継続する作業)

各種構造基準図・標準図のデータベース化

標準図・基準図のデータベース化のねらい

- 現在は各社から図面として発行されている
- 設計図の部材リストとは別に実際の加工に必要な情報が含まれている
- 鉄骨では製作CADに必要なデータとして認識されていて、各社の基準図から必要なデータをみて手入力することで製作を進めている
 - データで受け渡した方が間違いがない
 - データで処理することで不必要な質疑がなくなる
 - 設計意図が確実に反映された建物が構築できる

■ 標準図のデータ化(今後の作業)

各種構造基準図・標準図のデータベース化

対象として考えている基準図・標準図

- 鉄筋コンクリート構造基準図

→ データベース元として日建連・JSCA共同WGによる
「鉄筋コンクリート造配筋標準図」 2023年4月

日本建設業連合会(日建連)のWebサイトからダウンロード可能

NEWS RELEASE

鉄筋コンクリート造配筋標準図の改定・公表について

■ 標準図のデータ化(今後の作業)

鉄筋コンクリート造 配筋 標準図

● 鉄筋コンクリート造 配筋 標準図

データの記載方法については終了
最終版を作成中

部位	対象				条件1	条件2	条件3	複数を指定 する場合	起点	基準寸法などの規定		対象外 (監理者と協議)
	位置	対象	項目1	項目2 項目3						値	以下	
独立基礎	基礎筋	上下位置	立上りの有無		有の場合				柱面	8d (個別設定対応?)		構造図による
	はかま筋	有無 余長 定着			通し配筋の場合 柱定着の場合				柱面	8d - (柱幅) L2	以上	
連続基礎	基礎主筋	立上りの有無	立上りの有無		有の場合				柱面又は梁面	8d (個別設定対応?)		構造図による
	基礎配力筋	有無			有の場合				柱面又は梁面	8d (個別設定対応?)		
	はかま筋	有無 余長 受け筋 定着長さ			通し配筋の場合 柱定着の場合				柱面又は梁面	8d D13 - (柱幅) L2	以上 以上	
	側柱交差部	基礎主筋連続配置方向	定着長さ		定着の場合 (基礎主筋方向に平行な梁と重なる場合)				柱面又は梁面 (梁が取り付けかない側)	外周方向 L2		
中柱交差部	第1基礎主筋 (接続方向)	配置						配力筋 (通し)	接続方向の主筋間隔の1/2	以内		
	配力筋 (定着)	定着長さ						基礎縁端	L2			
隅柱交差部	基礎主筋連続配置方向							配力筋 (通し)	接続方向の主筋間隔の1/2	以内		
	基礎主筋	定着長さ			定着の場合 (基礎主筋方向に平行な梁と重なる場合)			柱面又は梁面 (梁が取り付けかない側)	両方向 L2			
	配力筋 (定着)	定着						基礎縁端	L2			

■ 標準図のデータ化(今後の作業)

各種構造基準図・標準図のデータベース化

対象として考えている基準図・標準図

- 鉄骨基準図

- ST-Bridge ver.2.1.0 に含まれている項目の見直し
- 仕口部分の材料板厚決定要素のデータ化を最初に行う

使用実績の多い鉄骨製作CADへのデータ受け渡しを考慮

